

## 部活動ガイドライン

### 【適切な部活動を目指して】

部活動は、学校教育の一環としておこなわれるものであり、生涯にわたってスポーツや芸術文化等の活動人親しむ基盤を形成するだけでなく、異年齢との交流の中で、児童生徒同士、児童生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり児童自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義は大きい。

活動においては、児童生徒が自主的、自発的な参加となるように、実施形態などを工夫するとともに、休養日や活動時間を適切に設定するなど児童生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮することが必要である。

<p>【スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ時間について】</p>	<p>【知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育み、豊かな心や創造性の滋養をめざして】</p>
<p>「休養日を少なくとも1週間に1～2日設けること、さらに、週当たりの活動時間における上限は、16時間とすることが望ましい。」休養日は「週1日以上以上の休養日を設けること。その際、月2回以上は週末を休養日とすること」</p>	<p>児童の自主的・自発性を尊重し、適切な休養日及び活動時間を設定し、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるようにすること。多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性の滋養を目指した教育の滋養に努めること。</p>

\*スポーツ庁・文化庁・長崎県教育委員会・長崎市教育委員会のガイドラインに則り、適切な活動を行う。

長崎南山ジュニアフットボールクラブ	長崎南山小学校コーラス部
<p>【活動のねらい】</p> <p>一人ひとりが勝利を目指して仲間と協力し、全力発揮できるようにする。また、仲間や保護者・指導者・相手チームとの健全な交流を通して、主体性や自主性・社会性を育む。</p> <p>【休養日及び活動時間】</p> <p>◆活動時間・休養日</p> <p>○1・2年生は1時間程度、3・4・5・6年生は2時間以内とする。また、安全面を考慮し、季節に応じて活動終了時刻を変更する。</p> <p>※基本的に、1年生は月・水(1時間)、2年生は木・金(1時間30分)、3年生は火・金(2時間)、4・5・6年生は火・木・金(2時間)、月・水を休養日とする。週末も休養日あり。</p> <p>○詳細は、随時、メールや文書で保護者に連絡する。</p> <p>【活動計画立案】</p> <p>◆ガイドラインに則り、小学校の運動競技会は、特に児童の心身の発達から見て無理のない範囲とする。大会への参加については、日本サッカー協会及び九州サッカー協会が主催する大会(年2回)とその他の大会に適宜参加する。</p> <p>【熱中症・落雷等の事項防止について】</p> <p>◆『運動部活動指導の手引き(H26年度版)』に掲載されている「熱中症予防運動指針」・スポーツ庁スポーツ課の通達(R6.4.5)に則り、児童が安全に活動することができるようにする。</p>	<p>【活動のねらい】</p> <p>カトリック校の聖歌隊として、ミサでの聖歌奉仕と施設訪問などによる歌を通じた出会いを大切にしていく。</p> <p>「私たちの歌声が、誰かのお役に立ちますように」という祈りをこめたチャリティコンサートや、国内外の演奏家との共演などの機会を大切にしていく。</p> <p>【休養日及び活動時間】</p> <p>◆休養日</p> <p>基本的に、土・日(演奏会が土・日にある場合は除く)</p> <p>◆活動時間</p> <p>○それぞれの児童が参加することができる日を選択して活動する。</p> <p>※1年生は、基本的に、帰りの会后20分程度・基本的に夏休みの活動なし。</p> <p>※2～6年生は、月・水・木・金 帰りの会后4時半まで・火は4時まで。夏休みは演奏会等の日程に合わせて活動し、十分な休養をとる。</p> <p>○詳細は、随時、メールや文書で保護者に連絡する。</p> <p>【活動計画立案】</p> <p>◆ガイドラインに則り、多様な表現や鑑賞の活動を通して、豊かな心や創造性の滋養を目指した教育、バランスのとれた心身の成長と学校生活を送ることができるような活動計画を立案する。</p> <p>【感染症等の予防について】</p> <p>◆衛生管理マニュアルに則り、児童が安全に活動することができるようにする</p>

- ◆部活動顧問は、年間を見通し、児童に目標とさせる大会(演奏会・施設訪問先)を定め、それへ向けての年間活動計画及び参加大会(演奏会・施設訪問先)の精査、並びに毎月の活動計画及び実施報告を作成して校長に提出し、それを公表する。
- ◆部活動に関わる研修会にも積極的に参加し、望ましい部活動の指導・運営のあり方について研修を深め、校内関係者に還元する。
- ◆保護者、サッカー部の外部指導者、コーラス部の共演団体や施設等と学校が連携し、部活動のねらいの達成に向けて努力する。